

軽井沢土曜懇話会

第7回 10月23日(土) 15:00~

ヴァイオリン コンサート

ヴァイオリン 大津 純子

ピアノ 岡田 知子

Wien, Wien!

今回は、音楽の都ウィーンを舞台に、

シューベルトのピアノとヴァイオリンのためのソナチネ第3番ト短調
Op. 137の3、D. 408

W. スコット著『湖上の美人』=日本では「次郎物語」の作者・下村湖人が翻訳した=を元に作曲されたアヴェ・マリア
(エレンの歌 その3、Op. 52の6、D. 839)

フランツ・レハール作曲のオペレッタ「メリー・ウィドウ」よりワルツ

そして、フリッツ・クライスラーの珠玉の名小品集などをお届けします。

ベーゼンドルファーのピアノに伴われてヴァイオリンが奏でる作品の数々を、“気分はウィーン!” と楽しんで頂ければと思います。

曲目は都合により変更となる場合があります

大津 純子(おおつ じゅんこ) ヴァイオリニスト

東京芸術大学、米国ジュリアード音楽院卒業後、NYを拠点に演奏活動開始。

ジュネス・ミュージカル・インターナショナル及び、カーネギー・ホール両者による招待にてニューヨーク・デビュー。セントルイス交響楽団、シモン・ボリバル・ヴェネズエラ国立オーケストラ他との協演、リサイタル・プログラム：<The Artistry of Junko Ohtsu>のパブリックTVネットワークによる全米30都市以上への放映、また、米国でのラジオ放送出演も数多い。ロックフェラー三世財団より2年間に亘り特別グラント受賞。

国際交流基金派遣にて、ロシア、チェコ、オーストラリアなど、欧州、アジア、中南米諸国にて公演し、絶賛される。『ヴァイオリンの詩』、『アメリカ』(1998年、"レコード芸術"誌「室内楽準推薦盤」に選出)、『Prelude to a Kiss』などCD5枚をリリースしている。近年は、執筆・講演などの分野にも活動の範囲を広げている。

2002年、自ら企画・プロデュースする『Good Old Days』室内楽シリーズ：アメリカの<素敵な時代>を立ち上げ、日本のクラシック音楽シーンの盲点であった"知られざるアメリカ"にスポットを当てた意欲的な好企画として、また、文化的な新シリーズとして、音楽界はもとより各界でも大きな注目を集めている。今年6月にはシリーズ第三回目：『ヨーロッパの巨匠たち』を開催。

岡田 知子(おかだ ともこ) ピアニスト

東京芸術大学器楽科を卒業後、北西ドイツ音楽アカデミー・デトモルトへ留学。声楽の伴奏、器楽とのアンサンブルを学ぶ。K・シルデ、G・バイセンボルンに師事。1976年同校を首席で卒業。1977年1月ベルリン、メンデルスゾーン・コンクール、ピアノ・トリオ部門第一位受賞。同年10月ジュネーブ国際音楽コンクール、ピアノ・トリオ部門第二位(一位空席)及びスイス特別賞受賞。1978年帰国、以降アンサンブルピアニストとして活発なコンサート活動を続けている。

また来日演奏家との共演、CD録音、コンサートのプロデュース等々、多方面で活躍している。毎夏、草津夏期国際音楽祭、そしてスイスで開かれるチューリヒ・マスター・コースに専属ピアニストとして招かれている。